

授業科目名	高齢者看護学臨地実習Ⅱ(リハビリ期)	担当教員	◎那須 真弓、青山 美紀子、 山田 案美加	科目ナンバリング
必修	開講年次：3年後期	単位：3単位	授業形態：臨地実習135時間	NS370

【授業概要】

リハビリテーション回復期にある生活機能障害を持つ高齢者の看護実践に焦点をおく。リハビリ期にある高齢者の包括的なアセスメントから対象者の健康レベルとニーズに応じた看護を実践する。心身の機能、構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした高齢者とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を構築していく過程を支援するための課題を見出す。学生は、医療チームの一員として、リハビリ期(回復期・生活期)にある対象者のための看護師の役割を明確にする。

【達成目標】

1. リハビリ期にある高齢入院患者と家族のニーズを踏まえ、健康増進、疾病予防に向けたセルフケア能力の向上を目指した看護過程を展開できる。
2. リハビリ期にある高齢入院患者と家族の権利を擁護できる。
3. リハビリ期にある高齢入院患者と家族を支援する多職種との協働と、看護師の役割や専門性を理解することができる。
4. 在宅高齢者へのリハビリテーションサービスについて理解することができる。
5. 専門職としての自律的な学習を深めることができる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「高齢者看護学概論」「高齢者看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

- 実習1日目・オリエンテーション(実習病院・施設の概要)情報収集(受持ち患者)
 実習2日目～8日目(病院実習)：受持ち患者の看護過程の展開(関連図を基に看護問題を抽出し計画・実施・評価)を行う。
 ・中間カンファレンス：全体関連図より看護問題の説明
 ・最終カンファレンス：事例からリハビリテーション看護の役割を学ぶ
 実習9日目：NST見学(病院)から得た学びをカンファレンスで深めレポートにまとめる。
 実習10日目～13日目(通所実習)：施設内での看護師の役割とケア内容等を体験する。レクリエーションを企画・実施・評価を行う
 実習14日目：通所施設の特徴、レクリエーション企画評価を全体発表で共有する。
 実習15日目：実習まとめ 面接評価

【教科書】

指定なし

【参考書】

- 高齢者看護学概論や高齢者看護援助論で使用した教科書、参考書、資料
 山田律子他編(2016)生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図、医学書院
 石川ふみよ他編(2013)高次脳機能障害を持つ人へのナーシングアプローチ 医歯薬出版株式会社

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価70%、事前学習10%、レポート課題10%、カンファレンス参画度10%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業(高齢者看護援助論)が終了した時点で課題を提示する。課題は実習オリエンテーション時に提出する。看護技術に関しては、基礎看護学及び高齢者看護援助論で学んだ内容を、安全・安楽に実施できるように事前学習をする。(2時間)

事後学習：1日の実習終了後に各自が学んだ内容を振り返り、必要な知識を深めたくうえで記録を完成させる。(2時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅵ. 継続的に専門性を向上させる実践能力、Ⅶ. 包括的看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については4年次前期に学生個人に返却する(掲示により連絡)。

【備考】

- ・高齢者看護援助論で学習した「アセスメント」「関連図」について理解しておく。
- ・高齢者看護学臨地実習要項にて詳細を確認すること。
- ・看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。